

# 「技術が社会課題を解決」の信念で

## i-Con普及の立役者 CONTACT



左から室伏氏、吉田氏、富田氏

それぞれの  
生産性向上へ 2025

「建設現場の生産性を2025年度までに2割向上」の旗印の下、取り組みが加速するi-Construction。その普及を支えている立役者がいる。測量関連メーカー6社で構成する有志連合CONTACT(建設戦略会議)。22年度は直轄工事で小規模施工に照準を合わせた要領が加わり、普及の流れが、一気に地方公共団体発注事業まで押し寄せる中、CONTACTは設立当初から地域の支援を続けてきた。代表を務めるトブコンの吉岡執行役員スマートフォン事業本部部長の3人のキーマンに組織のこれまで、これからを聞いた。

# 地域支援の「これまで」と「これから」



5月に初開催したICTユーザーカンファレンスも盛り上がりを見せた

「誰かが汗をかかないとi-Conは普及しない。地道な営業活動の中で聞いたこの一言がきっかけとなった。これを聞いたトブコンの江藤隆志代表取締役副社長執行役員品質保証部長が関連メーカーに声を掛けて18年2月に始めたのがCONTACTの前身と

## イノベーターとの出会いが財産

なるi-Con勉強会だった。i-Conが国土交通省から新たな政策として発表されたのは16年12月。本格化したのは17年度からだが、実はトブコンではその20年ほど前の1990年代の終わりごろから情報化施工などとして、現場の生産性向上を後押しする商品投入していた。吉田氏は「現場のデジタル化技術は米国に成熟した市場があり、日本でも同じように展開しようと考えていた」と話す。だが、壁にぶつかることになる。日本と違い、米国は生産性向上がイノベーションとなるため機材には惜しみなく投資する。公共発注機関で精度管



地域建設企業向けの体験会を数多く開催した

の8割は地方公共団体の発注で技術系の職員が少ないことから、地域の支援が重要になると考えた。外部機関にアプローチするに当たり、覚えやすいCONTACTという名称で普及支援活動を開始した。CONTACTは現在も発注団体との意見交換や課題抽出、地域建設企業への啓発活動などを展開している。活動の全ては手弁当によるもので、民間企業にとって負担は決して軽くない。営業と切り離し、啓発活動などに特化する取り組みは、トブコンにとっても初めてだったという。

このため「われわれも理解を深めて取り組まないと普及しない」と焦りを感じていた。「公共工事だけが写るまじりに「慎重」に位置取りをしていた。このビルは65年の建築後、慰霊と平和への祈りを妨げ続けてきた。建築を許可した広島市に当時の方針を疑わざるを得ない。さすがにこの問題に気が付いた広島市は、平和記念資料館から広島市景観審議会に諮問し、その答申が2018年に提出された。答申では、市街地部の丘陵にまで原爆ドーム背景にはビルなどを置かないように規制することを求めている。この規制は範囲が狭いだけではあるが、現状は大きく改善されるであろう。答申では触れていないが、問題ビルも9年後に移転する予定になった。

## 原爆ドームの修景を

### 建設 論評

間もなく8月6日である。77年前のこの日、午前8時15分、広島市は米軍機の投下した人類史上初の1発の原子爆弾によって壊滅し、14万人が犠牲となった。

1946年に始まった広島平和祭は52年から犠牲者の慰霊と世界恒久平和の実現を祈る平和記念式典となり、爆心地に設けられた平和記念公園の原爆死没者慰霊碑の前で執り行われるようになった。式典では時の首相が慰霊碑に献花し、多数の外国要人も参列している。ここのはグテレーノ国連事務総長が出席を予定している。

資料館を参観してから平和記念公園を北へ向かい慰霊碑、原爆ドームに詣でる人は多い。原爆を投下した米国からは2016年にオバマ大統領が現職として初めて慰霊碑に献花して

いる。ことし5月にはミシェルE.U.大統領が献花しているが、ウクライナ侵攻でロシアが原爆使用を示唆したこともあり、E.U.大統領の参拝には深い意味が感じられた。さらにことし10月には第10回平和首長会議総会が広島で行われ、多数の首長が詣でた。

慰霊碑に詣でて目を上げると、原爆の残虐さを実感させられる。その意義により原爆ドームは96年にユネスコ世界文化遺産に登録されたのである。ところが、その敬虔な慰霊と祈りを妨げるのが原爆ドームの背景に位置するビルである。オバマ氏、ミシェル氏はどう感じたであろうか。両氏は報道するテレビは原爆ドームと慰霊碑

同じように景観を破壊してしま

た東京の首都高日本橋は地下化により、名橋日本橋の復活が始まっている。広島の問題は、移転と平和公園の修景が日本橋に遅れずに進むことを期待したい。

## 非住宅向け内装強化

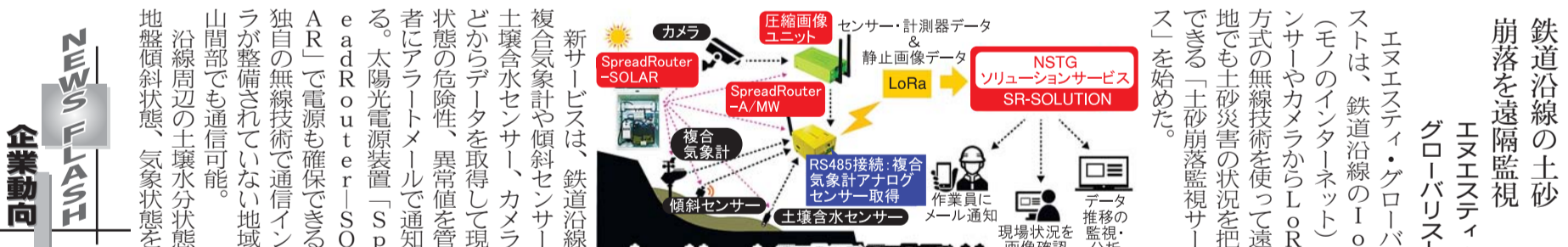
大建工業は、公共、商業施設向けの内装用不燃ルーバー「グラフィックルーバー」の施工方法に、ボルト固定式とクリップ固定式を追加し発売した。写真、固定や取り外し、交換作業を簡単にしている。新しい方法では、ボルトナットや在来天井用のクリップルーバーを固定する。これにより接着剤を不要とした。クリップ固定式の場合は、既存下地を再利用することもできる。現場加工が可能な従来の直付式に、固定方法を簡略化した新しい方法を加えて、非住宅施設への提案の幅を広げる。

## 住宅用建材・設備の希望小売価格値上げ

LI-XILは、一部の住宅用建材・設備のメーカー希望小売価格を改定する。原材料価格などの高騰の影響を受け、最大で27%程度値上げする。インテリア建材は9月1日受注分から、エクステリアや金属サイディング、トイレユニットバスルームなどは10月3日受注分から新価格を適用する。住宅サッシ、玄関ドアの一部商品は11月以降、順次改定する。

主な対象商品と時期、改定率は次のとおり。

- ▽インテリア建材 10~20%程度
- ▽エクステリア 15~15%程度
- ▽フロント商品 10%程度
- ▽金属サイディング 10%程度
- ▽トイレ 14%程度
- ▽ユニットバスルーム 19%程度
- ▽各種換気乾燥暖房機 5~24%程度
- ▽洗面化粧台 10%程度
- ▽洗面化粧台・ペレリナカワ
- ▽温水器 12%程度
- ▽タイ
- ▽11月から順次(一部商品)
- ▽住宅サッシ、玄関ドア 5~10%程度



## 鉄道沿線の土砂崩落を遠隔監視

大建工業は、同社の建築音響製品を使った防音室の写真を募集した「MY防音室フォトコンテスト」の結果を発表した。応募総数131作品の中から「最優秀賞」1作品、「優秀賞」2作品、「入賞」17作品の計20点を決めた。

## 防音室フォトコンテスト結果発表

「おうち時間」を有意義に過ごすニーズの増加に伴う防音室の設置やグレードアップを検討する人の参考になるように、防音室のある暮らしの楽しさを表した写真を集めた。入賞作品は、結果発表の特設ページ(https://www.dai-ken.jp/sounddesign/contest/result.html)で閲覧できる。